



松柏小学校 学校便り

R 8. 9. 1 (火)

えがなかちゃん

No.10

—笑顔・なかま・チャレンジ—

校長 加地孝昌

さあ、2学期のスタートです！

子どもたちの元気な声が校舎に響き、2学期がいよいよ始まりました。2学期は、第2週目から、**陸上運動記録会の練習**が始まり、9月30日は、**人権・同和教育参観日**があります。10月は、**音楽会練習**に力を入れ、10月21日には、松柏小学校で初めてのお祭り集会を計画しています。11月は、**マラソンタイム**を行い全校で体力の強化に努めます。11月18日は、**校内音楽会**。心



を一つに合わせた合唱・合奏を行いますので、お楽しみに(^)/。12月9日は、**校内マラソン大会**。その他にも、**写生大会**の絵を描いたり、**避難訓練**を行ったり、全校で**三島東中吹奏楽部**の演奏を体育館で聞いたりする等、いろいろな活動を計画しています。

盛りだくさんの2学期、子どもたちが様々な行事や活動を通してたくましく成長し、また、子どもたちが**意欲的に学習に取り組み、「分かった」「できた」と達成感を感じる授業を進めてまいります。**子どもたちの心・体・学力を大きく育てる2学期としてまいります。どうぞ、よろしくお願いします。



PTA奉仕作業 ありがとうございました(^)/



8月23日(日)にPTA奉仕作業があり、運動場の草引き、教室の扇風機の掃除や窓拭き、樹木の剪定等を行っていただきました。1時間の作業で、学校が一気に綺麗になりました。気持ちよくなった環境の中、2学期、頑張っていきます！ありがとうございました。

勇気のある行動一つが世の中を変える

今から 30 年も前の話です。ある運動会の出来事で、今でも胸に刻み込まれている出来事がありますので、ご紹介します。



太郎君は、小学校 4 年生。3 年生までの運動会でのかけっこは、いつも先生と手をつないで走っていました。それは、太郎君が、「よういドン！」の後、どっちへ向いて走ったらよいか分からなくなるからでした。

4 年生になり、かけっこの練習中、太郎君は大発見をしました。それは、「よういドン！」の後、運動場に引いているトラックの線を見ながらずっと走ると、ゴールまで行けることに気付いたのです。それから、太郎君は、線を見ながらゴールまで走る練習を、先生や友達と繰り返しました。



運動会当日。太郎君の走る順番がやって来ました。お父さんもお母さんも、スタートに立つ太郎君をじっと見ていました。「よういドン！」。太郎君以外の子は、勢いよく走りだしました。太郎君は、慌てず、練習通りに走りだしました。ゆっくりと、でも、確実に前へ進んでいました。

第 2 コーナーを回った時のことでした。あるテントの中で、こんな声が響いたそうです。「なんで、あんな子、走らせるん。かわいそうになあ。」口調のきつい、責めるような声でした。テントに座っている人は、（おかしい!）とみんな思ったけれど、誰も何も言えませんでした。静まり返ったテントの中、一番前に座っていたおばあちゃんが振り返り、「何を言よんですか!」と言い、さっと前を向き、「ぼくよー、ガンバレ〜!」と手をパチパチさせながら大声で言いました。

テントに座っていた人は、ハツとしたような顔になり、「そうよー、ぼくよー、頑張れー!」「がんばれ〜!」「もうちょっと〜!」と応援する声で一杯のテントになりました。



太郎君はゴールに近づき、最後の直線になりました。ゴールには、先にゴールした子どもたちが、太郎君に向かって、「ガンバレー!」「もうちょっとー!」と大声を出しながら、みんなで太郎君のゴールを待っていました。



この話は、運動会後に太郎君のお父さんから教えてもらったものです。太郎君のお父さん自身、運動会中にそんなことがあったとは知らず、後日、知り合いの人から聞いたそうです。太郎君のお父さんは、私に、こんな話をしてくれました。

「先生、僕は、この地域にこんな差別があるということを言いたいんじゃない。差別的に言った人に対して、何かをしてほしいわけでもない。何も言えなかった人に何かを言いたいわけでもない。もし、その場にいたら、親の僕であっても何も言えなかったかもしれない。僕が言いたいのは、おばあちゃんのこと。そのおばあちゃん、決して長い時間をかけて注意をしたわけでも説教したわけでもない。でも、わずか 10 秒、わずか 10 秒の行動で、テントにいた人みんなを変えた。先生、人間一人の力って大きいよなあ。僕は、そんなおばあちゃんみたいな人になりたい。僕も、そんな勇気を出せる人になりたい。」

そのお父さんの言葉、一言一言が私の心に刺さりました。人を変えることは難しいと思っていた私は、正しい行動を起こせば何かが変わる。一言、声を出せば差別的な空気を止めることができる。「それはダメだ!」と心の中で100回唱えたとしてもダメ。何も変わらない。『行動』こそが大事。『一言出せる勇気』が大事。そんなことを胸に刻み、そして、私が学んだことを、子どもたちにも語ってきました。

「行動」もいろいろな形があります。はっきりと注意するのも行動。「それは違うと思うな。」と同調しないのも行動。その場では言えなくても、後で友達に相談するのも行動。親や先生に言うのも行動。メモで書いて渡すのも行動。子どもたちには、「おかしい」と思うことに対し、自分のできる行動の中で、何か一歩、踏み出せる子に育ててほしいと願います。



2学期は、人権・同和教育参観日もあります。保護者の皆様のご協力をいただきながら、人の痛みに気付き、人の痛みを自分事として捉える感性が育つような教育を進めてまいります。よろしくお願いします。

